

—第 22 回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2024 年 6 月 23 日 (日) 13 : 00~15 : 00

開催方法 オンライン (Zoom を使用します)

コーディネーター : 井上 透、前川 道博

プログラム

※発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。

1. 企業サイトにおける「会社の歴史」コンテンツの分析
～国内ブランドカ上位 30 社の現状～ (13 : 00~13 : 15)
増田 和也 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
2. デジタル博物館の登録博物館認定について (13 : 15~13 : 30)
武田 剛朗 (大網白里市教育委員会生涯学習課)
3. 地域資源の学習活用を促すハイブリッドアーカイブの構築 (13 : 30~13 : 45)
前川 道博 (長野大学)
4. 地口絵を遺すためのデジタルアーカイブ化と保存・利活用
～荒川・入間川流域の地口絵と絵師のオーラルヒストリー～ (13 : 45~14 : 00)
加藤 栄子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
5. 怪談研究へのデジタルアーカイブの視点導入に関する検討 (14 : 00~14 : 15)
森 翔大 (名古屋大学大学院 人文学研究科)
6. 米国国立公文書館日本関連資料の利用にあたって
～画像資料の利用 (同一性保持権) に関わって～ (14 : 15~14 : 30)
熊崎 康文 (岐阜女子大学)
7. 大学生によるバーチャルツーリズムコンテンツの制作
～下呂温泉街を例に～ (14 : 30~14 : 45)
林 知代 (岐阜女子大学)
8. 中国語対面・オンラインレッスンの教材研究開発 (14 : 45~15 : 00)
鈴木 かおり (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局 (岐阜女子大学)

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内

電話 : 058-267-5301 (日本デジタルアーキビスト資格認定機構)

第 22 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

1.	<p>企業サイトにおける「会社の歴史」コンテンツの分析 ～国内ブランドカ上位 30 社の現状～</p> <p style="text-align: right;">(13:00～13:15)</p> <p style="text-align: right;">増田 和也 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)</p> <p>自社の歴史をコーポレートサイトで公開することは、企業ブランディングにおいて有益だと考える。しかしサイト訪問者の印象に残るコンテンツを作成するには、相応の人的資源と時間を費やさねばならない。投資対効果を勘案した上で、企業は「会社の歴史」コンテンツにどれほど重きを置いているのか。調査会社が発表した 2023 年のブランドカトップ 30 に該当する国内企業の現状を分析し、その傾向を明らかにする。</p>
2.	<p>デジタル博物館の登録博物館認定について</p> <p style="text-align: right;">(13:15～13:30)</p> <p style="text-align: right;">武田 剛朗 (大網白里市教育委員会生涯学習課)</p> <p>令和 5 年 4 月に、博物館法が 70 年ぶりに改正されたことにより、展示施設を持たなくとも、博物館法による登録が可能となり、大網白里市デジタル博物館の取組が、改正博物館法の趣旨と合致したことから、令和 6 年 1 月に条例等を整備し、同年 3 月に登録博物館として認定された。</p> <p>このことは、展示施設を持たず、インターネットを中心に資料を公開している機関としては、全国初の事例である。そこで、デジタルアーカイブ機関が登録博物館となった一事例として、報告をする。</p>
3.	<p>地域資源の学習活用を促すハイブリッドアーカイブの構築</p> <p style="text-align: right;">(13:30～13:45)</p> <p style="text-align: right;">前川 道博 (長野大学)</p> <p>藤本蚕業プロジェクトでは長野県上田市の「藤本蚕業歴史館」を対象に所蔵資料のデジタル化、デジタルツイン化に取り組んできた。これにより地域のどこからでも、また学校の教室からでもタブレットやスマホ利用により眼前で資料館をバーチャルに探検、資料閲覧ができるようになった。見学・閲覧は開館日を限定することで現地利用が柔軟でかつ効果的に運用できる。d-commons.net、Matterport、SVG の技術適用により実現した。このようリアル、バーチャルを両輪とするハイブリッドアーカイブを地域 DX のモデルとして各地で実現していくことを提案する。</p>
4.	<p>地口絵を遺すためのデジタルアーカイブ化と保存・利活用 ～荒川・入間川流域の地口絵と絵師のオーラルヒストリー～</p> <p style="text-align: right;">(13:45～14:00)</p> <p style="text-align: right;">加藤 栄子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)</p> <p>「地口 (じぐち)」は語呂を合わせた洒落で、享保年間より流行し、地口に合わせ戯画を添えた地口絵は、稲荷神社の初午祭礼などで地口行灯 (行燈) として立てられた。</p> <p>地口は、言語学として主に研究され、地口絵も文字による記録の比重がまだ高いことから、紙媒体の避けられぬ劣化や消失に備え、際物の地口絵を画像データとして遺し、また、絵師が減少するなか、映像によるオーラルヒストリーとして収録することによって、地域アーカイブとして保存し、伝承、復活の際の利活用が可能となるようデジタルアーカイブ化が必要である。</p>

5.	<p>怪談研究へのデジタルアーカイブの視点導入に関する検討</p> <p style="text-align: right;">(14:00~14:15)</p> <p style="text-align: right;">森 翔大 (名古屋大学大学院 人文学研究科)</p> <p>発表者の専門は日本近世文学であり、主に怪談・奇談(怪異小説)の研究を行っている。近世には数多くの怪談集が執筆・出版されていることに加え、怪談の舞台は日本各地さまざまで、地域性が見られることもある。そのため、研究においては多くの怪談の舞台や特徴といった情報を整理していくことになる。</p> <p>本発表では、このような怪談研究にデジタルアーカイブの視点を導入し、怪談の情報をメタデータとして捉えて整理することの効能について検討してみたい。</p>
6.	<p>米国国立公文書館日本関連資料の利用にあたって ～画像資料の利用(同一性保持権)に関わって～</p> <p style="text-align: right;">(14:15~14:30)</p> <p style="text-align: right;">熊崎 康文 (岐阜女子大学)</p> <p>元岐阜女子大学教授の菊川健先生が、当時の文部省科学研究費で米国国立公文書館から約4,000件の映像を収集された資料が岐阜女子大学に保管されている。戦中から戦後の国の機関から市井の人々の様子まで記録された貴重な資料で、基本的にパブリックドメインとして利用が可能である。近年、AI等による白黒画像のカラー化が行われているが、米国国立公文書館の白黒画像のカラー化について許諾の要を同館に問い合わせたところ、可能であるとの回答を得た。</p>
7.	<p>大学生によるバーチャルツーリズムコンテンツの制作 ー下呂温泉街を例にー</p> <p style="text-align: right;">(14:30~14:45)</p> <p style="text-align: right;">林 知代 (岐阜女子大学)</p> <p>デジタルアーカイブ1・2年生48名で、下呂温泉街の10軒の旅館の館内施設を360度パノラマ画像を撮影をさせていただき、旅館内の360度パノラマツアー制作と旅館ロビー空間のメタバース化を行った。その意義と360度パノラマ画像デジタルアーカイブ化の課題について報告する。</p>
8.	<p>中国語対面・オンラインレッスンの教材研究開発</p> <p style="text-align: right;">(14:45~15:00)</p> <p style="text-align: right;">鈴木 かおり (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)</p> <p>2014年~2020年まで子ども向け中国語サークル活動を行ってきたが、2020年の新型インフルエンザ等感染症流行により、対面レッスン用のカリキュラム・教材をオンライン用に開発する必要があるがあった。</p> <p>対面レッスンでは効果的であった教材が、オンラインでは効果を発しないケースがあった。本研究では、対面レッスンとオンラインレッスンにおける教材の有効性を比較し、それぞれの利点と課題を明らかにする。</p>

※発表時間は10分、質疑応答は5分です。